

2026 わかば

節分まつい

2月1日(日)

午前11時開始

(20分ほどで終了となります)

場所：中央ふれあい広場特設会場

対象：どなたでも無料でご参加できます

※福豆がなくなり次第終了

※当日雨天の場合、福豆つかみ取りチャレンジ!を開催いたします。

・時間：11時00分～17時00分まで(なくなり次第終了)

・場所：特設会場(タテヤマ電器となり)

・参加無料、お1人様1回のチャレンジとなります。

豆撒きは午前11時からの
1回のみとなります

ラッキー福豆ゲットでプレゼント!

撒かれた福豆に

「当たりシール」が

貼ってあればステキな福物と
交換できます!

主催:わかば会

節分とは?

「季節を分ける」ことを意味し、本来は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことをいいます。しかし旧暦では立春が年の始まりにあたることから、いつのころからか節分といえ、立春の前日をさすようになりました。立春を新年と考えれば、節分は大晦日。特別な意味を持つようになったと思われます。節分は大晦日にあたることから、節分の日に邪気を払い、新年を多幸き年として迎え入れるようにという意味を込めて「追儺(ついな)」の行事が行われます。追儺とは悪鬼・疫魔(えきま)を追い払う儀式のことで、新年を迎える行事として中国で行われていたものが、文武天皇の頃に日本に伝わり、宮中行事として行われるようになったそうです。それが次第に庶民にも伝わり、節分行事が行われるようになりました。

鬼について

鬼とは、邪気や厄の象徴。昔は、災害や病、飢饉などの恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えられていました。「鬼」の字は奈良時代から使われていますが、「おに」と読まれるようになったのは平安時代以降。平安時代中期に作られた辞書『和名類聚抄』によると、目に見えないものを意味する「陰(おん)」が転じて、「おに」と読まれるようになったのだそうです。

【節分の日の慣わし】

福豆まきについて

豆を撒く風習は、鬼の目を打ち、「魔を滅する」に通じるからという説があります。炒った豆を、年男や一家の主人、厄年の人が「鬼は外、福は内」と大声で叫びながら豆を撒き、邪気や厄を祓います。炒った豆を使うのは、生豆を使って拾い忘れたものから芽が出ると再び悪鬼が芽を出してやってくるので良くないといわれているからです。豆撒き後は、自分の年の数、または自分の年の数+1の豆を食べ、一年の無病息災を願います。

福鰯の頭と柇木について

鰯を焼いた時の煙と臭いが厄を滅うといわれ、節分の日には家の入口に鰯の頭を柇の樹にさしておく風習があります。鬼の嫌がる鰯の臭いと、柇の煙の臭いにつけて、鬼が近寄らないので鬼門封じや厄除けになると昔から言い伝えられています。地域によっては、にんにくやとべらなどの臭いのあるものをそえるところもあるようです。

福巻き寿司のまるかじりについて

関西を中心に、その年の恵方(年神様のいらっしゃる吉の方角)に向かって無言で太巻き寿司を丸かぶりし、新しい年が良い年であるようにと願いながら食べるという風習があります。巻き寿司を使うのは「福を巻き込む」からで、切らないのは「縁を切らないために」といわれています。

令和八年の恵方は「南南東」